

## 2019年:学習院大学の“傾向と対策”総評

### ★学部別傾向★

文学部に論述 200 字×2 問以外に、学部的な特徴はありません。すべての学部において(論述を除き)、記述:選択=1:1 になっています。2016 年の国際社会学部も当初は戦後史の出題が中心となるかもとの大学側のコメントもあっさり裏切られ、法・経済と変わらない出題内容・出題形式となりました。

ただ、大学全体としては、GMARCHの他大学と比べると、出題方法や出題形式が珍しいモノがあるため、**過去問での慣れは必要**となるでしょう。特に全体の25%を占める正誤問題に特色があるため、過去問演習は欠かせません。ただ、**昨年・一昨年からのスライド出題も少なくないため、他学部3年分程度を正誤問題中心に解いておくのがベスト**でしょう。

### ★年度別傾向★

他のGMARCHより学部数が少ないため(4学部)、大問数は豊富ではありません。しかし、**同じ単元や分野やテーマが出題される**ことが近年増えてきました。完全に囲い込みですね。**他学部に出題されたのと同じ国、同じ地域の他の時代が出題される**傾向も見受けられますので注意。

経済学部が 2/6、文学部が 2/9 の問題をチェックしておくことは、残りの法学部・国際社会学部の狙い撃ちに効果的と言えます。また、同一用語が答えになる時もあるので注意喚起!

### ★配点表★

経済学部	英 150	国 120	世 120	重要
文学部	英 150	国 150	世 100	軽視
法学部	英 150	国 100	世 100	普通
国際社会科学部	英 200	国 100	世 100	英語重視

### ★全体的に★

とにかく、正誤問題が厄介。全体の 25 点ほどにあたります。大きく点差が付くので、かなりのアウトプットが必要でしょう。この正誤は、用語の間違いを見つけるもので、正しく書き換えねばなりません。つまり、一問一答を記述式でできる必要があり、又用語の間違い探しのテクニック(東西南北・王朝名・戦い名・条約名・法制名・世紀・人物などの間違いが多い)を学ぶ必要があります。

用語 Level は決してハイレベルではありません。用語集の赤のみ(頻度④以上)で十分に7割越えは可能です。基本はやはり、国・民族・人物・戦乱・革命・法制が中心と言えるでしょう。

経済学部・文学部は文化史、法学部・国際社会科学部は戦後史が大問1問は出題される可能性が高いので再確認は必要です。これも、スライド出題を狙いましょう！

**\*受験学部の過去4年以内に出題されていない単元・分野・テーマで、昨年・一昨年に他学部で出題されているモノは、今年の大いなる狙い目となります。**

## ★学習院大学ナショナリズム★

### 【西洋史】

- ①ギリシア・ヘレニズム・ローマ時代（人物・戦争・文化）
- ②キリスト教史（ローマ時代・フランク王国との関係・ローマ＝カトリックの盛衰・宗教改革）
- ③西欧中世国家（英仏対立・レコンキスタ・神聖ローマ帝国史）
- ④西欧&東欧の絶対王政
- ⑤フランス革命～ナポレオン時代～ウィーン体制崩壊
- ⑥19世紀のイギリスとアメリカ
- ⑦ヴェルサイユ体制の成立とWW I 以後の欧米諸国の動向

### 【東洋史】

- ①中国史の出題が高い（過去に受験する学部に出題されていない時代を狙う）  
\*特に明・清・アヘン戦争～国共合作は多い
- ②東南アジア王朝とイスラーム王朝の歴史
- ③インド・東南アジアの植民地化
- ④オリエント世界（隔年＝奇数年にどこかの学部で出題）
- ⑤朝鮮半島史

### 【文化史】

- ①ギリシア～ローマ文化
- ②中国文化史（特に諸子百家・唐・明清が多い）
- ③産業革命

### 【戦後史】

- ①冷戦を中心とする戦後有名事件とアメリカ大統領
- ②ヨーロッパ統合史と独仏関係
- ③朝鮮戦争・ベトナム戦争・中華人民共和国の建国などの戦後アジアの動乱